

初心を忘れずに

周 甜

留学することは、経験者なら分かると思いますが、決して華やかでなことばかりではありません。もしまだこの困難な道に乗り出すことを躊躇しているようであれば、きちんと考えてから決めたほうがよいと思います。

私は中南林業大学日本語学科の4年生として、大学の友好提携校重細亜友之会外語学院との3+1留学プログラムに参加し、重細亜友之会外語学院で一年間の留学生活を送りました。一般コースの間は、進学プレッシャーがなく、毎日のんびりとして過ごしました。新しいアルバイトにチャレンジしたり、毎月どこかに旅行に行ったり、大学4年の中で一番充実した一年間を送りました。大学を卒業したら、中国で就職するか、中国の大学院に進学するか少し悩んでいました。最終的には、重細亜友之会外語学院の大学院進学コースに編入して、日本の大学院を目指すことにしました。

大学院進学クラスに入ってから、研究計画書、日本語教育の専門知識の勉強の面のプレッシャーはもちろんありますが、私にとって最もプレッシャーに感じたのは精神的な面です。自分が何のため日本に来たの、なぜ大学院に入りたいのか何度も自問自答しました。そこまで頑張らなくてもいいのではないかと帰国したい気持ちさえありました。今の生活についてとても厳しいと感じたら、多分人生の上り坂を歩んでいると思います。重細亜の先生方は「無駄なことはない」といつも励んでくださいました。今の努力は直ちに結果につながらないかもしれないが、いずれ他の形で報いてくれると思います。

次は大学院の専攻について少し経験談を紹介したいと思います。日本語専攻だった私にとって、大学院に進学して何を勉強するのか随分悩んでいました。専攻を選ぶ際には、まず自分の興味関心が一番大事だと思います。その次に考えなければならないのは将来の就職のことだと思います。自分の能力、興味関心、そして将来の就職などを総合的に考えて、その妥協点を見つけ出したら、多分自分の進むべき道も分かってくると思います。

大学院に進学する前の1年9ヶ月間、重細亜友之会外語学院で過ごせたことは私にとって一番の幸いです。落ち込んで進路に悩んでいた時に、先生方がいつも励まして下さいました。日本語教育の専門分野において先生方に貴重なアドバイスと助言をして頂きました。また、生活の面において、石川先生に大変お世話になったことも忘れられません。そして、全校200名以上の学生を抱えている多忙な校長先生にも面接練習をして頂きました。諸先生方に、本当に心から感謝を申し上げたいと思います。重細亜の先生方が普段とても厳しいのですが、困った時に信頼できるような親切な先生ばかりです。

この文章を読んだ後に、まだ日本に留学するかどうか躊躇しているようでしたら、まず自分がどんな生活を送りたいのか、留学を通して自分の送りたい生活に近づけるかどうかをもう一度考え直したほうが良いと思います。“無駄なことはない”、頑張れ！

2014年3月